

どの学年も持ち味があつて楽しい音楽発表会に 職員発表では、児童も一緒にエクササイズ

21日は恒例の吉川小学校音楽発表会でした。各学年の発表は、この日のために何時間もかけて練習した成果がよくあらわれていました。どの学年も持ち味があつて、とても楽しいひと時となりました。

例えば1年生、入学して半年になります。「あるこ あるこ わたしは元気」の曲が流れる中、大きく手を振り、足も上下させながら舞台へ。なれない学校生活の中に楽しさを見つけて元気よく頑張っている様子を歌と言葉で示してくれました。ヤギを飼うことにして子ども



たちが校長先生のところをお願いに行くと、先生は、「みんな、お世話できるかな……。よし、飼つてもいいぞ」。ヤギのぬいぐるみも登場させての歌は「なかよしやぎさんのマーチ」でした。

4年生。元気にのびのびと、「ヘーイ ヘーイ ヘーイ」。「ヘーイ ヘーイ」。とても元気でした。彼らが歌う前に大きな声で言った言葉は体育館に響きわたりました。吉川の上流の水はとてもきれい。山から見ると最高。吉川の水は尾神岳から生まれるんだよ。気球に乗って見てみよう。そして彼らが歌った歌は、「時には大空に旅してみたくなるものさ」で始まる「気球に乗ってどこまでも」でした。

総合学習で米づくりを学んだのは5年生です。今年はお米を作りました。「見つけよう感じよう」という文字が壇上のスクリーンに浮かびます。担任の先生が背筋をすつと伸ばしてタクトをふり、子どもたちが歌ったのは「地球の息吹」でした。スライドではコメづくりの様子の子の映像を映し出しながら、「田植えの時から収穫のことを考えてニコニコしてしまいました」など子どもたちが学んだ時の思い出や感動を語りました。

毎年、聴衆をわかせるのは職員の発表(上の写真です)。今回は「千の風になつて」を歌ったあと、ひよつとすると、合唱だけで終わったのかもと思わせるほど次の出し物が出て来るまで時間がかかりました。保護者の中には、「これで終わったなら、懇親会は荒れるよ」という声まで出ました。やっと準備が出来て、職員さんが出てくると会場から歓声があがりました。エク

ササイズです。私もそうなんですが、校長先生のワンテンポーズの動作、先生たちのおどけた仕草、そしてブリッジにみんなの目が注がれました。最後は、子どもたちも一緒に体を動かすほどのりにのりましたね

やりたいことを、自分のために、楽しく、みんなでやるのがポイント

まちづくり講演会

「まちづくり吉川」が主催したまちづくり講演会が25日、吉川コミプラで開かれました。講師は市役所の野澤朗企画・地域振興部長。約80人の人たちが熱心に聴き入りました。

野澤部長はまず、人口の動きについて紹介。安塚区や大島区などよりも直江津や高田の中心市街地で人口減少率が高くなっていることを言ううと、みんなびっくりでした。

今後の吉川区のまちづくりについてもいくつかのヒントを示しました。法政大学や荒川区などの市外との交流を大事にしながら、市内の高田や直江津との循環(ぐるぐる)、中山間地と平場の循環についても追求する。吉川区はこの区とも連携をとれる位置にある。各区との連携を重視してほしい。活動の原点は住民の意思、やりたいことをやる。自分のやりたいことを楽しくやること。それが長続きのコツ。そして一緒にやる「みんな」を増やしていくことが大切だと結びました。(写真はオヤマボクチ)



やりたいことを楽しくやること。それが長続きのコツ。そして一緒にやる「みんな」を増やしていくことが大切だと結びました。(写真はオヤマボクチ)

秋が深まり、ツタやヤマウルシなどが赤くなってきました。尾神岳も紅葉し始めました。子ども時代、この時期の楽しみといえば、熟した村屋柿（むらやがき）を食べること、そして山芋を掘ることでした。現在はどうかといいますが、私はいま、「いもご」にはまっています。

「いもご」の正式名称は「むかご」と言うのだそうです。山芋の葉の付け根にできる球芽で、大きなものになると小指の頭ほどのものがあります。色も形もさまざまですが、大きくても小さくても、また、どんな形をしていようとも、これには山芋の香りとコクが詰まっています。とても美味しいのです。

おそらく、子ども時代からこの「いもご」を食べていたのでしょうが、どういうわけか、私にはその記憶がほとんど残っていませんでした。山芋そのものへの関心が強かったからなのでしょう。

「いもご」についての記憶がよみがえるきっかけとなったのは数年前のことでした。浦川原区の菱田という集落にある著名な歌人・山田あきさんの歌碑を見に行った時、案内役の宮川哲夫さんが「いもご」をもちで、「これ、むかしは、炒（い）って食べたもんだ」と教えてくださったのです。そのひとりで、おおきなフライパンの中で「いもご」を炒っていた母の姿を思い出しました。もちろん、ほっくりとした味も一緒です。

以来、「いもご」についての記憶を次々とたぐり寄せることができるようになりました。母が「いもご入りご飯」をつくってくれたこと、「いもご入りの天ぷら」を食べる時、中の「いもご」がどうなっているかを確かめながら食べたことなどです。

記憶がよみがえっただけではありません。それを再び食べたい、しかも自分で作ってみたいと思うようになりました。調理方法を習わずにいきなり作っても大丈夫という気楽さもありましたからね。

こうして、一番先に作ったのは、「いもご入りご飯」でした。あらかじめ、「いもご」をよく洗っておいて軽くゆでる。コメをといだら、そこに一握り入れて炊くだけ。炊きあがった時、電気釜からこぼれでたように、「いもご」の匂いが台所全体に漂っていました。とてもいい匂いでした。

ふたを開けると、ご飯はうっすらと茶色の色がついていて、「いもご」がうま味蒸（ふ）けていました。ひと口食べたら、じつに美味い。あっさりした味でありながら、ひと口、もうひと口とつい食べ続けてしまう魅力があります。そんなわけで、今ごろの時期になりますと、多い時で五回、少なくとも三回くらいは「いもご入りご飯」を食べています。

今年「いもご」の入った別の料理にも挑戦してみようと思っていたところ、先日、長岡市小国町（旧小国町）法末（ほつすいえ）の宿泊施設で「いもご入り天ぷら」をご馳走になってきました。母が作ってくれたものとひと味違うのは、この中に「あけび」の皮の部分がちよっぴり入っていて、これが隠し味としてきまっていたこととです。こんな工夫ができるのかと感心してしまいました。

この「あけび入りいもごの天ぷら」に触発されています。「サルナシ入りいもごご飯」などに挑戦しています。なかなか思っている味は出せませんが、自然にある素材をいかして「いもご入りご飯」をさらに美味しく出来たらいいなと思っています。



築西市議会建設委が吉川区を視察

茨城県の築西市（下館市などが合併してできた新市）市議会の建設常任委員会のメンバーが25日、上越市を視察にこられました。視察の目的は震災時におけるライフラインをどう確保するかでした。

一行は木田事務所でガス・水道局から市内全体の被害状況、対策の実際、今後の課題などについて説明を受けた後、吉川区で現地視察を行いました。議長、副議長が公務で不在だったため、私が上越市議会を代表

して同行しました。

吉川区では佐々木博一総合事務所長から、吉川区全体の被害状況や対策について説明を受け、その後、土蔵や住宅、農業集落排水管路などの被害状況を視察しました。ある委員は、「水道管は当市でも古いので、他人事ではない。管路工事のやり方も参考になる」とのべていました。

メンバーの中の3人は旧協和町出身。「私の牛飼いの先生は協和町の鈴木茂さんでした」と言うと、話はずみしました。吉川コンプラの展望台で「ここに見える景色は尾瀬あきらの漫画・『夏子の酒』の最終章に出てくる場面ですと紹介（写真）したら、「これは、素晴らしい景色だ」と喜んでもらえました。

京都の大学院生も視察に

京都市にある立命館大学大学院から院生のMさんが視察にやってきました。上越市の地域自治区と地域協議会の勉強です。

尾神岳展望台に登り上越市の広さを確認してもらい、吉川区の取り組みなどについて、私が説明しました。どんな論文を書いてくれるか楽しみです。

